

私の一生

～波乱万丈の生涯～

相羽 克己 著

執筆期間 平成 21 年 6 月 27 日～7 月 11 日

もくじ

1. 出生～幼児期（昭和4年～昭和9年）	2
2. 小学校時代（昭和10年～昭和16年）	2
3. 旧制中学校時代（昭和17年～昭和21年）	3
4. 青年師範学校時代（昭和22年～昭和24年）	4
5. 39年間の教員生活	5
(1) 愛知郡東郷中学（昭和25年3月31日～昭和27年5月31日）	5
(2) 豊明小学校（昭和27年3月31日～昭和36年3月31日）	6
(3) 刈谷市立富士松南小学校（昭和36年4月1日～昭和43年3月31日）	7
(4) 住吉小学校（昭和43年4月1日～昭和51年3月31日）	8
(5) かりがね小学校（昭和51年4月1日～昭和60年3月31日）	11
(6) 小高原小学校（昭和60年4月1日～平成元年（昭和64年）3月31日）	11
(7) 退職	13
6. 結婚	13
7. 子どもたち	14
8. おわりに	14
写真集	15
参考資料	17
学 歴	17
職 歴	17
病 歴	17
世情と出来事	18
和暦・西暦早見表	19
編集後記	20

1. 出生～幼児期（昭和4年～昭和9年）

昭和4年2月22日、愛知県西春日井郡西枇杷島町にて出生。

父・鈴吉（警察官）、母・すま、異母兄・重夫（12歳年上）、異母姉・由紀恵（10歳年上）。異母兄姉の母親は死去、後妻をもらうのに身内の方が良かろうと、前妻の妹の「すま」が母親になる。

昭和7～8年、父は枇杷島警察署、安城警察署などで勤務。その後、足助署長となった。家（官舎）の近くを足助川が流れ、よく遊んだという話を聞いた。また、置屋の芸者がよく遊んでくれたとのこと。

その後、父は田口警察署長になった。官舎の前に貯水池があって、一度落ちたことがあり、税務署の人が助けてくれたことがうっすらと思い浮かんでくる。

2. 小学校時代（昭和10年～昭和16年）

昭和10年4月、田口小学校に入学。7月頃父が警察官をやめ、名古屋市役所水道局に勤務することになった。田口のことは、官舎から右側へ行くと丘があり、土手でそりを使って遊んだことを覚えている。また、山道を歩いて行くと小学校に出た覚えがある。

千種に住み、千種小学校に転入学するも1ヶ月で豊明村（豊明市荒井）の本家に居候した。小学校へは行かなかった。

そして1ヶ月経って豊明村桜ヶ丘に移転した。豊明尋常高等小学校に入学。学生服にランドセルという格好で前後駅の前に集合して通学団で集団登校した。他の子はわらぞうり、着物、かけカバンの子が多かった覚えがある。

2年生荒川という女の先生で、写生大会で桜の景色を描いて入選した。

3年渋谷先生、4年杉山先生。5年生山口先生の時、初めて級長になる。

6年生阪野先生。初めて1ヶ月年皆勤賞をもらう。とても嬉しかった事を思い出す。それまでは病弱で風邪をひいたりしてよく休んだ。

修学旅行は皇紀2600年（昭和15年）で（日本の年号、戦前は使われていた。終戦から西暦）奈良檜原神宮と伊勢神宮で2泊3日であった。

1泊目は奈良猿沢池近くの旅館に泊まった。夜中に枕投げをやった。明け方2～3人で「朝だぞー」と大声を出して先生に叱られた。

奈良から伊勢宇治山田へ行く途中で吐いた。伊勢の旅館で夜食も食わずに寝ていた。翌日伊勢神宮を参拝して帰路についた。あまり良い思い出のない修学旅行であった。

中学進学のための入試、名古屋中学（今の名古屋学院）南山中学（男子校）県立熱田中学（五中、今の瑞陵高校）を受けたが、何れもだめだった。

入学試験の内容は、懸垂（5回以上）、跳び箱、口頭試問であった。1年間は城太郎の家で、加藤仁平と3人で大脇の浜島先生に入試のための勉強を教えてもらった。城と加藤は刈谷中学に合格した。

昭和16年4月、仕方がないので高等科1年に進むことにした。都築先生であった。

3. 旧制中学校時代（昭和17年～昭和21年）

翌年昭和17年4月、刈谷中学に1年遅れで入学した。春と秋、麦刈り、稲刈りに農家へ行った。学校では城、加藤とは顔を合わせないようにした。

1年生の8月夏休み、父が刈った干草を軍馬のために寄付した。大脇公会堂まで自転車で運んだ。その時、磯野家から伝わった太刀を鉄供出で協力した。（お寺の鐘、なべ、かま等鉄でできたもの）

2年生の5月頃（昭和18年）、腎盂炎で休学。関節炎、神経痛など痛い毎日であった。阿野の外山孝治医師には随分世話になった。翌年1月より復学し電車で通学する。（それ以来正座が苦手になった）

3年生になり、（昭和19年）4月から学徒動員で豊田自動織機へ勤務することになった。始めのうちは機械が珍しくて苦痛ではなかったが、だんだん日が経つにつれて嫌になってきた。作っていたのは船の焼玉エンジンの部品であった。昼飯は全員（3年生と5年生400名位）食堂で食べた。大豆入りご飯は良い方で、だんだん豆粕入りのご飯が出るようになった。

戦況が悪くなり、B29が日本に来るようになった。艦載機（グラマン戦闘機）が飛来し、防空壕の中でもうだめかと思った。一度は、警報が出て山畑に逃げ西瓜畑で私と2～3人と先生とで西瓜を食べていたら艦載機が飛んできて機銃掃射を受けた。もうだめだと思いつつも近くの用水路に飛び込んで土手に身体をよせてじっとしていた。

4年生の7月頃（昭和20年）、三河大地震があり、工場の屋根が倒壊して作業ができなくなった。家の方は毎晩一週間くらい防空壕（外）の中で寝た。夜、静かになる

と地鳴りがしてとても恐かった。

工場へ出勤したら、屋根が倒壊していて工場らしさがなかった。工場は丸裸で機械が天井の無い部屋にある風景であった。しばらくの間後片付けをした。生産は停止になり、青空の下で生産しているところも見受けられた。夜勤で工場に向かう時、B29が墜落するのを見たことがある。

7月に入り、警戒警報が出ると工場から避難するようになり、空襲警報になると家へ帰ってもよくなった。今川までは4～5人で帰ったが、そこから先の東海道は一人で境川を渡って帰った。暗い夜道、走って阿野まで帰り、荒井の自宅へと辿り着いた。

戦場では日本軍が勝利を収めたかのように報道していた。しかし、沖縄、硫黄島の玉砕など負けが重なった。また、広島・長崎に新型爆弾が落ち、町は崩壊、沢山の人々が亡くなった。(原子爆弾)

8月15日の昼に大事な放送があるということで待機しラジオに聞き入った。初めて聞く天皇の声、「みんな力を合わせ苦しい生活にも我慢してください」という内容に聞こえたので、戦争はまだ続くと思った。

午後、工場へ夜勤のために出掛けたら、来なくていいと門番に言われ帰宅した。何がなんだかわからなかった。翌日学校へ行き、日本が負けたことを知り、初めて終戦になったことがわかった。昨日までは、米英をやっつけろ、一日経ったら敗戦国。天と地がひっくり返ったように感じた。

また学校で学習することになった。6年生の同級生で名古屋の中学へ行った子が空襲で亡くなったと聞いた。今思うと、名古屋へ行かなくてよかったと思う。

翌年昭和21年3月、4年生までで卒業か5年生まで学習するかを選択することになり、5年生までを選んだ。毎日の勉強も以前と随分変わった。地理・歴史は180度の変化であった。教科書を破ったり学校に提出したり墨で消したりした。

4. 青年師範学校時代 (昭和22年～昭和24年)

昭和22年、5年生の2月、岐阜高等農林、三重水産高校を受けたがだめだった。青年師範学校農業科に入学した。(視力、特に色弱が気になった)3年間、農業のことを学び卒業した。

5. 39年間の教員生活

(1) 愛知郡東郷中学（昭和25年3月31日～昭和27年5月31日）

昭和25年3月31日、初めての赴任は愛知郡東郷中学であった。自転車で通った。先輩の分まで宿直をやらされ、あまり家へ帰らなかった。2年生を担当した。また、陸上クラブを担当し、生徒とグラウンドや外へ出て長距離を一緒に走った。

生徒たちは「先生」と呼ばないで「兄ちゃん」と言った。年齢差が少ないことがそうさせたのだろう。私は20歳、生徒は12歳～14歳だったと思う。

宿直の時に大雨が降り、運動場へ行く道の土手が崩れ土砂が宿直室の横まで迫ってきたので、無意識に部屋にあったミシン30台くらいを運んだ。後からよくやったと思った。

校長は、愛知郡でも有名なきつい性格で、生徒の前によく叱られた。「生徒を集めよ」「竹ぼうきはこうして使うんだ」(竹ぼうきを回しながらごみを集めるとほうきは同じ減り方をする)宿直室へ来て、「泊まったら起きたときに掃除をするように」とも言われた。他の先生も若い頃はよく叱られたが、今は慢性になっているようだった。

生徒を叱りビンタした後、家の人に言うかどうかを聞いたら、言うとは余計叱られるので黙っていると聞いた。こういう時代でもあった。

昭和25年4月に初めてもらった初任給は、1ヶ月4,300円くらいであり、税金などいろいろ引かれ、それを半月毎にもらうので、手取り1,600円であった。何も買えるわけがなく、一年間、学生服で通勤した。

昭和25年の夏、宿直の夜8時頃、学校の近くの部落（地区）から二人の女生徒が遊びに来た。こっちは布団も敷き蚊帳も吊って、もう寝るばかりであった。「早く気をつけて家へ帰れ」と言って帰した。ところがである。寝ようと思って蚊帳の中に入って暫くすると、何か顔のあたりでモソモソ動くものがある。灯りをつけてよく見ると、ばった（いなごだったかもしれない）がいた。「やりおったな。」と思った。いつの間に入れたのかわからない。まるで昭和版「ぼっちゃん」の巻であった。怒るに怒れない、人には言えない一幕であった。これは生徒と年齢差が少ない事に関係があるのではと思う。これも若い頃の思い出の一つである。

(2) 豊明小学校（昭和 27 年 3 月 31 日～昭和 36 年 3 月 31 日）

昭和 27 年、教員になって 3 年目の 5 月、豊明小学校（自分の母校でもある）に転任した。家を引っ越すことになり、通勤がたいへんになる。（翌年 2 月、雪の降る日に移転した）竹村駅から初めての夜道を歩いた。

5 年生を担当した。お茶目な女子が「先生、この学校には立派なピアノがあるが、弾けるか？」と聞いた。「ピアノなんか弾けるよ」と返答した。しかし実際は弾けない。そこで宿直の夜、ろうそくの灯りで練習した。もちろん単音である。音楽の時間が来て、ピアノを単音で弾いたら、「先生弾けるね」と聞いてホッとした。

翌年（昭和 28 年）6 年生の担任で、修学旅行で予め旅館に米を送っておくために、児童が家から 3 合米を持ってきた。出掛ける 1 週間くらい前だったと思うが、台風が来て京都から奈良へ行く奈良線が不通になってしまった。旅行日には開通したが、台風で荒れた田畑など車窓からよく見えた。

この年（昭和 28 年 4 月）、佐藤照満が新任で赴任してきた。佐藤も含めて 3 人で宿直をすることになった最初の夜の出来事である。「風呂へ入れや」と佐藤を風呂に行かせた。初めての風呂である。佐藤が 20 分程して帰って来て言うには、「ああ、熱かった」てっきり湯が熱かったのかと思ったが、話を聞くと、風呂の浮き蓋を取って入ったとのこと。実はまだこの頃は田舎では五右衛門風呂が多かった。風呂の入り方を教えておくべきであった。彼は都会の名古屋育ちなのでこういう風呂の入り方を知らないのも当然であった。話を聞いて、可笑しいやら気の毒やらで、ふっと「東海道中膝栗毛」の弥次さん喜多さんの話を思い出した。今でもその時の様子が脳裏をかすめる。（彼は故人となった）

3 年生を受け持った時は、「明日かいどりに行くから、たもがあつたら持って来るように」と予告した。こんなゆとりの時間があり、川もきれいで魚もたくさんいた。

中京競馬場建設の工事のときには、ブルドーザーや大型機械を学校から見に行った。皆、アメリカから来たものばかり。戦争中、アメリカはサイパン島などに一日で飛行場を作ったのも、こんな機械のおかげ。日本はスコップ、モッコで人が運んだりした。たいへんな違いである。戦争に負けるはずだ。

宿直は都築信雄とやり、翌年から佐藤照満が加わり 3 人でやった。クラスや他のクラスの漫画本を集めてきてよく読んだ。

昭和 29 年から名城大学法商学部法学科の夜間部へ通った。家へ帰ると 10 時過ぎだった。よく電車の中で居眠りをして東岡崎まで乗り越したことがあった。夜食は名古屋駅の地下食堂街で食べることもあった。昼間は先生、夜は学生で大変であった。今考えると、よく頑張った 2 年間だったと思う。(耐えるということが身に付いた)

伊勢湾台風(1959 年(昭和 34 年)9 月)の翌日が宿直であった。電車が動かないので自転車でいった。東境の山道で松の木が倒れていて自転車を抱えてまたいだ。学校に着くと宿直室の畳は水浸し、窓ガラスが割れたところもあった。しかも一人で宿直をした。(佐藤は電車不通のため来なかった。都築は東知立小へ転勤していた)

(3) 刈谷市立富士松南小学校(昭和 36 年 4 月 1 日~昭和 43 年 3 月 31 日)

昭和 36 年、刈谷市立富士松南小へ転勤した。4 年生を受け持った。4 年生中で一番小さくて一番できない子が、逆上がりができるようになった。家へ帰ってまた学校へ鉄棒をしに来るための東海道横断でオートバイにはねられ死亡した。夜遅く学校から呼び出しの電話があり、子どもの家へかけつけたり翌日子どもの読む弔辞を考えたりと大変だった。葬式にクラス代表で男女 1 名を連れて参加した。

3 年目(昭和 38 年)に 6 年生を受け持ち、奈良・京都へ修学旅行に行った。帰りに京都駅から東海道本線に乗った。乗る時、男子で帽子を線路に落とし列車がプラットホームに入ってきた。駅員に言って竹の棒で取ってもらった。一安心だった。ところが列車が発車し客席へ入ろうとしたが、ドアが開かないので連結器の所に立っていたら、山中のトンネルに入った時にすすが立ち込めてえらい目に遭った。怒るに怒れない一幕であった。



昭和 37 年頃の 4 月、家庭訪問に行ったときの事。ある男子の家庭で母親に「家の子は落ち着きがなくて困っています」と言われた。話を聞きつつ、ふと畳に座っている母親に視線が行った。右手の指で畳の上をこすったりして、少しもじっとしていなかった。それを見て「この親にしてこの子あり」、母親自身がまずしっかりしなければと思った。

また、ある年の 4 月の家庭訪問。住吉地区は他の地区と比べて当時、団地が多かった。

同じ団地で同じクラスの子どもは何人もいた。初め知らなかったが、〇〇さんの家では先生が何分いたとか、お茶を飲んだとか、居間に上がったとか、うるさいということがよくわかった。一軒の家を訪問すると、その家を出て帰るまで、外で2~3人かたまって観察しているという風であり、どの家も同じ時間で済むように努力した。団地の家庭訪問には行きたくなかったと言うのが本音である。

(4) 住吉小学校（昭和43年4月1日～昭和51年3月31日）

富士松南小には7年間いて、昭和43年に新設校の住吉小に転勤した。教頭も一緒だった。6月までは児童は小高原小、衣浦小、亀城小に通学していた。私は小高原小配属となり6年生を受け持った。

他の学年が遠足の日、6年生は修学旅行へ行くため球技大会をした。朝から腹が痛くて刈谷駅近くの薬局で腹痛の薬を買って学校で飲んだ。ソフトボールの審判をしている最中に腹が痛くなり辛抱できなくなった。家へ帰ることにして竹村駅前の尾山医院で診てもらった。右横腹が痛くなったら盲腸だと言われ、家へ帰って寝た。夜遅くなって腹が痛くなり、今村の八千代病院に入院した。7針縫った。もう少しで大変なことになるところだった。普通1週間なのになかなかガスが出ないので2週間入院していた。風呂へ入る時、傷口から水が入らないか心配した。通勤は、知立までバスで通った。（今の155号線）当時は舗装してなかったのが凸凹のところが多く、そこへ車輪が入る度に腹に響いて痛かった。

住吉小では毎日授業後に植樹などの作業が続いた。

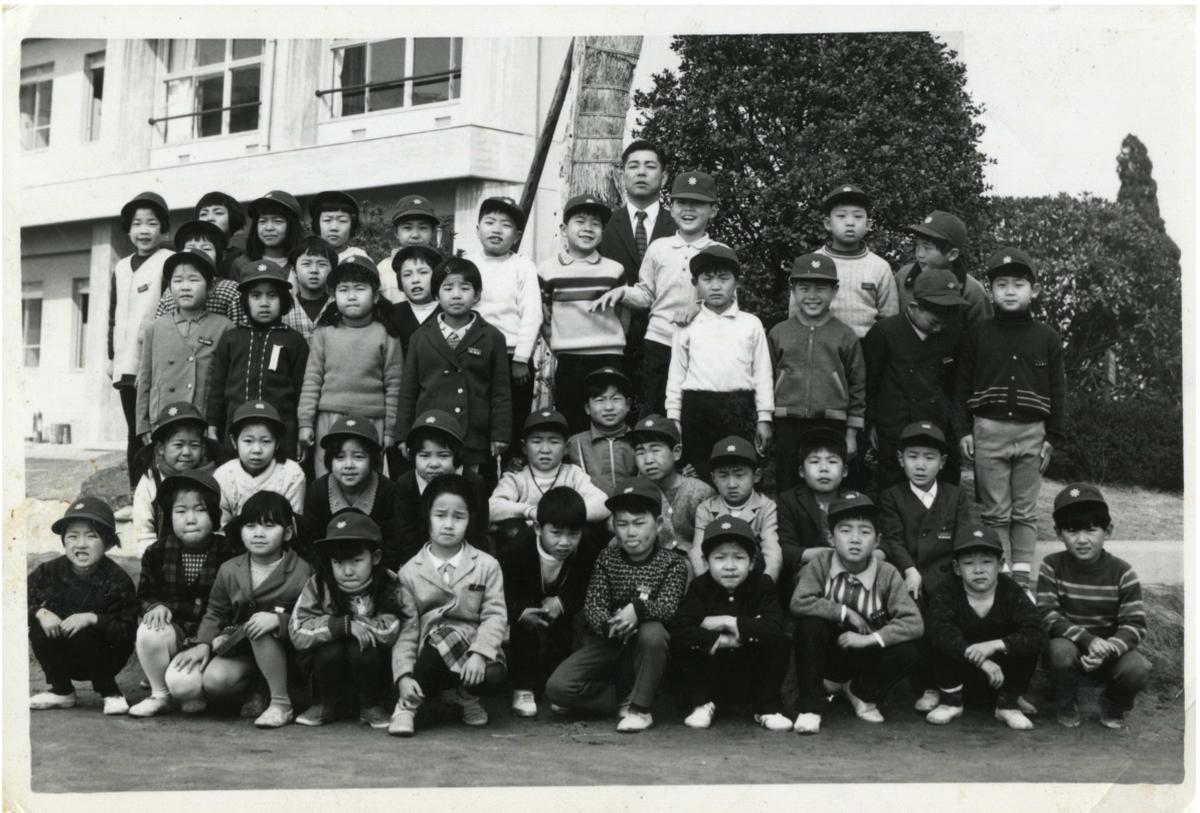
初めての宿直の番が来たときのことである。宿直室が無く、1棟目の3階の音楽室横の準備室（教室の3分の1くらいの広さ）に保健室の寝台を置き、その上に布団を敷いて寝た。夜中に目が覚め見ると、見事に寝台から床に落ちていた。痛かった!!他の先生方に話したら、寝台から落ちたことのある先生が2~3人いた。



宿直の夜は近所の食堂から出前を頼み、朝食は一膳めし屋まで出掛け、朝礼に間に合うように慌てて食べた。

翌年（昭和 44 年）2 年生を受け持ち、4 月の終わり頃夜遅く学校から電話があり、クラスの子どもが未だに家に帰っていないからすぐ来いと言うことで、あわてて出かけた。学校へ着くとおまわりさんがいて、学校中のトイレの中にいないか一緒に見て回った。次に今日歩いた所があるか聞かれたので川沿いに歩いたことを言うと、そこを歩いてみようと言うことで、懐中電灯の灯りをたよりに昼間歩いた通りに歩いて見て回ったがいなかった。学校へ戻って午前 3 時ごろ、見つかったという電話が入った。貯水池に落ちて死んでいるということであった。大変な一日になった。聞けば、帰宅して宿題をすませ釣りに出掛けたいとのことであった。これで担任した子どもが 2 名亡くなったわけで、嫌な気持ちになった。

自転車乗り大会が夏休みにあり、特訓のおかげで市内 2 位になった。交通指導員の指導もあり、みんなで祝福した。



昭和 44 年 住吉小学校 2 年 1 組



昭和 49 年 住吉小学校職員

職 員 (敬 称 略)									
朝倉 裕子	加藤 久夫	高津 則夫	渡部 熙	白井千佳子	稲垣 渥子	中村 嶺子	山本 きん	加美谷元治	
柵木 啓子	伊藤 有	野々山 ヒサエ	高橋 誠	柴田 桂子	佐野美代子	高野 繁樹	牧野 友子	竹川 葉子	鈴木佐知子
杉浦 毅	丹羽美津江	永田 哲夫	江坂 欽吾	浅井 澥	神谷 大三	竹内 貞男	磯村 益夫	佐伯 由美	相羽 克己

(5) かりがね小学校（昭和 51 年 4 月 1 日～昭和 60 年 3 月 31 日）

昭和 51 年、かりがね小学校へ転勤した。2 年生を担当した時、米作りをした。2 年生で体は小さいが農家の子は田植えも上手くやれた。他の先生よりも上手いぐらいだった。夏の草刈り、秋の稲刈りと大変だった。どうにか脱穀した。農協で精米し、にぎりめしにして食べた。



何年目かは忘れたが、児童が登校後に台風警報が出たときがあった。通学団毎に教室に入り、下校の放送を待った。そして通学団毎に順番に帰宅した。一里山の担当だったので父兄が迎えに来る一ツ木弘法さんの一番札所まで子どもたちを送って行った。傘をさしていた子の傘は、風のために天狗傘になった。風をよけるようにゆっくり歩いて所定の場所に着いた。合羽を着ていたので助かったが、こんな難儀なことは二度とごめんであると思った。帰りは一人で風や雨をよけるように学校に帰った。大変だった。

(6) 小高原小学校（昭和 60 年 4 月 1 日～平成元年（昭和 64 年）3 月 31 日）

昭和 60 年、小高原小学校へ転勤した。住吉小へ行く前を含め 2 度目である。

ある年の冬、3 時頃から雪が降り出した。5 時頃雪が積もらないうちに帰宅しようと思って車のところに行くと、雪が車にたくさん積もっていた。窓ガラスだけ雪を落としてエンジンをかけて帰った。途中、名四国道の陸橋（恩田）まで来ると、橋を境に名古屋方面は雪が降っているが、知立方面は雪が降っていなかった。奇妙なことに、知立方面から来る車には雪が全然積もっていない。こっちは雪を車体に乗せて走っている。知立方面から来る車に大変恥ずかしい思いをして帰った。家の方も雪は全然なかった。そういえば家の方では、アイシン精機の辺はよく路面が濡れていて雨の通り道らしい。きっと恩田から名古屋方面は雪の通り道にあたっているらしい。

最後の年に受け持った 6 年生の時の話である。女子が「先生の家に行きたい」と言うので、ある日曜日刈谷まで車で迎えに行き家まで連れて来た。彼女たちは何か遠足気分みたいだった。暫く家で休憩してから鞍ヶ池へ行った。ボートに乗りたいたうのでしぶしぶ乗せる事にした。2 隻で池の上を漕いだ。山の方にも行って遠景を眺めたりもした。帰りに喫茶店に入り、各自好きなものを注文して食べた。彼女たちにとって楽しい一日だったろう。

また、2月のバレンタインデーの前日、生活指導の係であったため、「明日はバレンタインデーだが、学校へチョコレートを持って来ないように」と、先生方から子どもたちに伝達してもらった。当日、教室に行ったら、教卓の引き出しの中にチョコ、机の上にチョコ、職員の下駄箱の靴の中にチョコ、いつの間に入れたのか職員室の引き出しの中にもチョコ。慌ててしまうのに大変な思いをした。学校へ持って来ないように注意してもらった手前、他の先生に見つからないようにロッカーにしまった。

家へ帰って数えたら 20 枚くらいあった。小さいチョコ 2 個があるかと思えば、値段の高そうな板チョコもあった。ところがである。ホワイトデーにお返しをするのが大変。一人ずつ職員室へ呼んで下校時刻までに他の先生方にわからないように渡した。同じクッキーで同じ値段のものを返したのだから大変だった。もちろん義理クッキーである。注意した手前、恥ずかしい思いがした。こんな日（習慣）はやめて欲しいと思った。

時代は昭和から平成の時代へと変わった。いよいよ 3 月で退職である。3 月の 1 ヶ月間は交通事故など起こさないように毎日が緊張の連続であった。



刈谷市立小高原小学校 3年生のともだち S.61.4

(7) 退職

平成元年4月6日の離任式で教員生活最後の挨拶をして学校を去った。思えばあっという間の実質39年間であった。今考えると良い思い出もあり、苦い思い出もあるが、長くて短かった39年であった。

退職後1年間くらい、寝言で号令をかけたたり子どもに注意したりしていたそうだった。時々、翌日の予定を立てていたこともあった。家事では母(すま)のおむつを買いに薬局へ通い、だんだんと買い物に行くようになった。

平成5年、母が亡くなって初めて自分の時間が持てるようになった。車で足助、小原、岡崎へと桜や梅を見に行っていた。

平成20年夏ごろから、遠出をするのがおっくうになった。平成21年6月23日からトヨタ記念病院へ入院した。手術はできたが、現在も治療中である。



6. 結婚

23歳までは養子の話がよくあった。25歳になるまでは全然何の話もなかった。25歳を過ぎたら今度は嫁の話が少しずつあったが、こっちは全然気が進まなかった。30歳までは結婚しないと3人(都築・加藤)で約束していたからだった。

27歳、昭和31年10月、父が「嫁さん、もらわんか」と言った。一度見合いをすることになり、夕方父と自転車で知立の来迎寺へ行った。見合い相手は、待てどなかな学校から帰って来なかった。(運動会の練習で遅くなった)顔をみてびっくり!何て黒いんだろう。豊明にいる時、よく吉池の床屋の辺を姉さんと走って駅に向かっているのを見かけた。何度も自転車で追い越した。少し話をして次の日曜日に名城の菊人形を見に行く事にした。

菊人形を見て広小路で食堂に入りカツ丼を食べた後、映画を見て来迎寺へ送って行った。まあ年もとったことだし結婚するかと思い、結婚を申し込んだ。その年12月の冬休みに知立神社で結婚式をすることにした。

新婚旅行は伊豆の熱川と修善寺で2泊3日の予定が3泊4日になった。

翌年昭和 32 年 11 月、長男が生まれた。一家繁栄を願って「樹が茂って豊かになる」という意味から「茂樹」と名付けた。

4 年後の昭和 37 年 1 月、長女が生まれた。樹が茂れば緑の葉が生い茂ることや、繁栄の意味も兼ねて「みどり」と名付けた。

父母が家のことや子どもの世話をし、我々は学校に勤めた。昭和 51 年 9 月、父が亡くなり、平成 5 年 1 月に母も亡くなった。伊佐子もようやく自分のことが自由にできるようになった。ご苦労様でした。

7. 子どもたち

長男も成長し、刈谷高校～広島修道大学へと進んだ。家から通えるところに行ってもらいたかったが、勝手に自分で決めてしまった。また、応援団に入ると聞いてびっくり、4 年後には応援団長になってまたまたびっくりした。学校は山の中で、卒業式に行った。

卒業後商社に入り、台北、香港で勤務した。楊叔真と結婚し、長女（宏美）、長男（宏樹）が生まれ、現在は自分で陶器の仕事をやり、中国での生活が 1 ヶ月に 3 週間、日本が 1 週間の生活である。

長女みどりは丹羽正志という豊田鉄工に勤めるサラリーマンと結婚した。何か娘を人に取りられる（獲られる）という感じだった。長男（貴彦）、長女（優実）が生まれた。

いろいろあったが現在は 3 人で暮らしている。ピアノ講師、パソコン指導、生涯学習指導などといろいろ大変らしい。

8. おわりに

平成 19 年、結婚 50 周年で市の記念式典に呼ばれた。記念写真を撮った。現在は二人とも 80 歳、生活はまあまあだが少し寂しい気がする。考えてみれば苦しみに明け暮れた一生だったとも言える。

最後に、52 年間連れ添ってくれた伊佐子に心から感謝している。

※ なお、遺影の写真は、結婚 50 周年の記念写真を使用することにする。

写真集





FUJICOLOR 73



FUJICOLOR 87



JICOLOR 86



参考資料

学 歴	
小学校	昭和 10 年 4 月～昭和 16 年 3 月
小学校 高 1	昭和 16 年 4 月～昭和 17 年 3 月
刈谷中学校（旧制）	昭和 17 年 4 月～昭和 22 年 3 月
青年師範 農学科	昭和 22 年 4 月～昭和 25 年 3 月
名城大第 2 法商学部 法学科 3 年へ編入	昭和 29 年 4 月～昭和 31 年 3 月

職 歴	
愛知郡東郷中学校	昭和 25 年 3 月 31 日～昭和 27 年 5 月 31 日
愛知郡豊明小学校	昭和 27 年 3 月 31 日～昭和 36 年 3 月 31 日
刈谷市立富士松南小学校	昭和 36 年 4 月 1 日～昭和 43 年 3 月 31 日
刈谷市立住吉小学校	昭和 43 年 4 月 1 日～昭和 51 年 3 月 31 日
刈谷市立かりがね小学校	昭和 51 年 4 月 1 日～昭和 60 年 3 月 31 日
刈谷市立小高原小学校	昭和 60 年 4 月 1 日～平成元年（昭和 64 年）3 月 31 日
勤務年数 40 年	

病 歴	
昭和 16 年 5 月～10 月	関節炎・神経痛（両足）
昭和 43 年 4 月～5 月	虫垂炎
平成 19 年 4 月 12 日	前立腺 トヨタ記念病院で受診
平成 19 年 5 月ごろ	検査入院（2 日間）
平成 21 年 2 月 2 日～5 日	自己導尿の仕方の実習のため入院
平成 21 年 5 月 1 日～2 日	検査入院
平成 21 年 6 月 23 日～8 月 12 日	前立腺癌手術のため入院

世情と出来事

国際連盟脱退

満州事変
2・26 事件
5・18 事件
支那事変（日中戦争）

第 2 次世界大戦
日本本土空襲
学童疎開
食糧の買出し
猛獣射殺
広島・長崎原子爆弾

昭和 20.8.15

日本降伏
極東裁判
戦後の混乱
闇市・浮浪児
学校給食（脱脂粉乳）
男女共学
東海道新幹線
国鉄民営化（JR）

昭和 25.3.31

就職

オイルショック
オリンピック（東京）
万博（大阪）
名神高速道路
東名高速道路
中央自動車道
愛知環状鉄道

平成元年 4.1

退職（3.31）
年金生活

ホームレス
コンビニが増える
就職難
石油製品の値上げ

現在

万博（愛知）
中央新幹線の計画
郵政民営化

伊勢湾岸自動車道
東海環状自動車道

和暦・西暦早見表

和 暦	西 暦	和 暦	西 暦	和 暦	西 暦
昭和 1	1926 12/25～	昭和 33	1958	平成 1	1989 1/ 8～
昭和 2	1927	昭和 34	1959	平成 2	1990
昭和 3	1928	昭和 35	1960	平成 3	1991
昭和 4	1929	昭和 36	1961	平成 4	1992
昭和 5	1930	昭和 37	1962	平成 5	1993
昭和 6	1931	昭和 38	1963	平成 6	1994
昭和 7	1932	昭和 39	1964	平成 7	1995
昭和 8	1933	昭和 40	1965	平成 8	1996
昭和 9	1934	昭和 41	1966	平成 9	1997
昭和 10	1935	昭和 42	1967	平成 10	1998
昭和 11	1936	昭和 43	1968	平成 11	1999
昭和 12	1937	昭和 44	1969	平成 12	2000
昭和 13	1938	昭和 45	1970	平成 13	2001
昭和 14	1939	昭和 46	1971	平成 14	2002
昭和 15	1940	昭和 47	1972	平成 15	2003
昭和 16	1941	昭和 48	1973	平成 16	2004
昭和 17	1942	昭和 49	1974	平成 17	2005
昭和 18	1943	昭和 50	1975	平成 18	2006
昭和 19	1944	昭和 51	1976	平成 19	2007
昭和 20	1945	昭和 52	1977	平成 20	2008
昭和 21	1946	昭和 53	1978	平成 21	2009
昭和 22	1947	昭和 54	1979	平成 22	2010
昭和 23	1948	昭和 55	1980		
昭和 24	1949	昭和 56	1981		
昭和 25	1950	昭和 57	1982		
昭和 26	1951	昭和 58	1983		
昭和 27	1952	昭和 59	1984		
昭和 28	1953	昭和 60	1985		
昭和 29	1954	昭和 61	1986		
昭和 30	1955	昭和 62	1987		
昭和 31	1956	昭和 63	1988		
昭和 32	1957	昭和 64	1989 1/1～1/7		

編集後記

この自叙伝は、平成 21 年 6 月 23 日～8 月 12 日、前立腺癌の治療のため入院中に父が書いたものを一字一句改ざんすることなく編集したものです。写真は、バラバラに出てきたので、いつごろのものかわからないものもありますが、父の記録として最後に掲載しました。

父が前立腺の病気だとわかったのは、平成 21 年 2 月のことでした。それ以来父は自分で車の運転をしなくなり、毎月 1 回のトヨタ記念病院への通院は、娘の私が父の愛車（ポルテ）で一緒に行っていました。

平成 22 年 2 月 11 日、食事が全く取れなくなり、トヨタ記念病院へ再入院。適切な処置により、22 日、父の満 81 歳の誕生日をなんとか迎えることができました。

2 月 14 日には、かつての父の教え子（昭和 47 年、刈谷市立住吉小学校）8 名、16 日には、その 1 学年下の教え子 4 名が、お見舞いに来てくださいました。父は、40 年も前の細かなことをよく覚えているなあと、感心しました。

また、2 月 24 日には昏睡状態の中、私が平成 14 年（2002 年）9 月より毎月 1 回開催し続けているハートフルコンサート（ボランティアコンサート）があり、私たちの演奏を聴いてくれました。

そしてその翌日、平成 22 年 2 月 25 日（木）午前 9 時 7 分、家族（妻伊佐子、長男茂樹、長女みどり、孫貴彦・優実）に見取られ、その生涯を終えました。幸せな最期だったと思います。

最後に、81 年間の生涯、39 年間の教師生活の中でたくさんの人々とめぐり逢い、81 年の長い人生を歩んだ父を尊敬します。

平成 22 年 3 月 4 日

長女 丹羽みどり

(16)

西
三
河
版

岡崎支局
岡崎市明大寺町向山2の21
郵便番号 444
(電0564②1166)
広告専用②0109

豊橋支局
豊橋市八町通2の21
郵便番号 440
(電0532③5208)
広告専用②8165

豊田 (電・③0227)
刈谷 (電・②2430)
碧南 (電・④1418)
安城 (電・⑥3370)
蒲郡 (電・⑧6562)

ニュース速報は
支局・通信機関へ

うちの
お父さん

私のおとうさんは、学校の先生です。よく生徒から「ドリフターズのおらいちゅうに、にている」といわれるそうです。私は、それを聞いて、にていると思いましたが、よく顔を見ると、少しにている。そこで、テレビ

豊田市竹村小4年
相羽 みどり

で、あらいちゅうが、出て来ると「アッ、お父さんがテレビに出ている」と、言います。何を言っても、おとうさん、お父さんのいいところですよ。（豊田市本町高辨一の二、教員、克巳さんの長女）